

肝臓病治療の最前線

〈下〉

徳島大学病院消化器内科助教

玉木 克佳

し)を血液中で見つけることが重要で

肝がん以外の原因でも異常値を示すことがあるため、確定診断には画像診断が必須です。これらの検査で早期に肝がんを発見できれば治療法の選択肢が広がり、根治の可能性も高くなり

的には最も有効な治療法です。これに対し内科的治療の代表としてラジオ波焼灼療法、肝動脈塞栓術があります。ラジオ波焼灼療法はおなかを切らずに体の外から肝がんを針(RFA針)を刺し、がんを完全に焼いてしまふ治療です。適応はがんの大きさが3cm以下、数が3個以下とされ、肝臓のあらゆる部位への治療も可能となります。

肝 がん

肝がんの治療には大まかに外科的治療、内科的治療のふたつがあります。どちらを選ぶかは、がんの数と大きさ、肝機能などで判断します。最初は内科的治療をしていても、経過によっては外科的に切除することもありますし、その逆もあります。

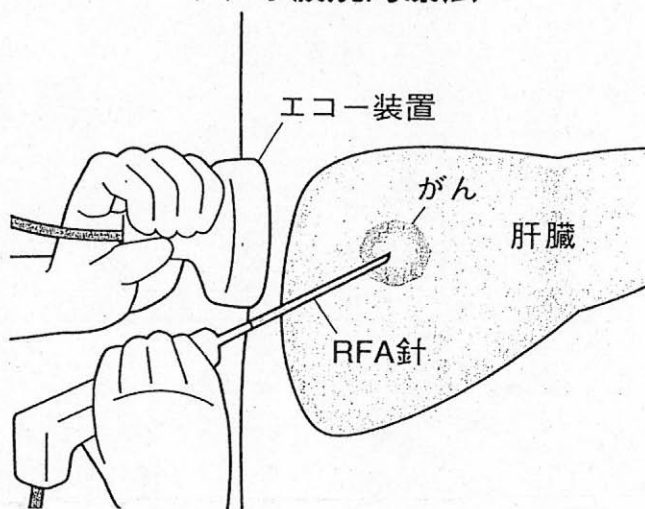
肝がんの治療には大まかに外科的治療、内科的治療のふたつがあります。どちらを選ぶかは、がんの数と大きさ、肝機能などで判断します。最初は内科的治療をしていても、経過によっては外科的に切除することもありますし、その逆もあります。

外科的治療は手術で肝がんを切除することで、局所

法の世界一の治療件数を誇る東京大学病院消化器内科

再発率高く定期検査重要

ラジオ波焼灼療法



の治療テクニックを導入した治療や分子標的薬という新しい薬剤も使用されて療を行っています。

一方、肝動脈塞栓術は肝がんに通じる血管にカテーテルという細い管を入れ、血管を詰めてがん栄養が行かないようにするいわゆる「兵糧攻め」の治療法です。肝がんが多発した場合にも有効です。このほか、抗がん剤を用

もし肝がんができたとしても、通常の肝機能検査(一般の血液検査)に変化が現れないことが多く、また自覚症状もほとんどありません。そのため肝がんを見つけるためには、超音波検査や造影剤を用いたCT検査、MRI検査などの画像検査と、肝がん特有なたんぱく質(腫瘍マーカー)

早期発見で治療法に幅

らががんが生じるためです。このため肝がんの治療終了後も、きちんと定期的に検査を受けることが重要です。